

## 令和4年度（2022）社会福祉法人すぎやまの家 基本方針

### **基本方針**

1. 法人理念を実現するため 杉山寮、杉山ホーム、相談支援事業の連携を諮る。

→各事業間において連携を大切にするとともに部署を問わず全員で情報を共有する。

2. 令和4年度中に相談支援事業の見直しを検討したい。（人材確保、事業の実施状況より勘案する）

→年度当初より見直しを検討する。

3. 将来構想（検討）委員会を立ち上げ具体的な検討に入る。

→理事会で承認を得た当初委員4名が中心となり具体的な検討に入る。

4. 社会福祉法人すぎやまの家各事業の人材確保に努める。

→杉山寮、杉山ホーム、相談支援事業の人材確保については、職員等が一丸となって働く人、働ける人を確保できるように努める。

## 杉山寮 目標

### 利用者一人ひとりが主人公

～コロナ渦であっても利用者が満足できることを考え行動する～

#### 1. 権利擁護と人権尊重

利用者一人一人のことを考え行動し、不適切ケアの段階で、お互いが指摘しあい、利用者が不利益にならないように努めます。

また研修会に参加することにより、権利擁護の視点の再確認し、自己研鑽に努めます。

#### 2. 職員間の連携および人材確保に努める

基本である「報告・連絡・相談」を行い、縦のつながりだけでなく、横の連携（部署であり、他事業所など）をしっかり行いながら、職務職責の遂行に努めます。

困っていること、悩んでいることを職員相互が気づける職場をつくり、上司同僚に相談できるように努めます。

#### 3. 各事業所との連携および地域との連携

外部との連携を利用し、施設での困りごとなどの発信、また地域での困りごとの把握などに努めていく。

積極的な短期入所の受け入れを行い、地域のニーズに少しでも寄り添えるようにする。また、高島市における地域生活支援拠点等事業にともない、杉山寮での役割（利用者の緊急時受入等）を担っていく。

災害および感染症（BCP）に基づき、訓練および研修会を実施する。

## 杉山ホーム 目標

利用者一人ひとりが主人公

～コロナ渦であっても利用者が満足できることを考え行動する～

### 1. 権利擁護と人権尊重

利用者一人一人ことを考え行動し、不適切ケアの段階で、お互いが指摘しあい、利用者が不利益にならないように努めます。

また研修会に参加することにより、権利擁護の視点の再確認し、自己研鑽に努めます。

### 2. 職員間の連携および人材確保に努める

基本である「報告・連絡・相談」を行い、縦のつながりだけでなく、横の連携（部署であり、他事業所など）をしっかり行いながら、職務職責の遂行に努めます。

困っていること、悩んでいることを職員相互が気づける職場をつくり、上司同僚に相談できるように努めます。

### 3. 各事業所との連携および地域との連携

外部との連携を利用し、施設での困りごとなどの発信、また地域での困りごとの把握などに努めていく。

利用者が必要とする支援を取り入れられるように、情報収集に努めます。空き室利用をしてもらえるように情報発信も行う。

## 令和4年度 相談支援事業ひろかわ目標

私たちは、障がいの有無に関わらず個人が主人公である事を意識し、地域で暮らせる社会・生活・活動の障壁等を見直しながらサポートしていきます。

1. 利用者個人の人生をより豊かに過ごしてもらえるように、「生活・活動・健康・余暇・家族・社会」での課題に向けて「気づき・考え・実行する・振り返る」をスローガンとして相談支援の役割を行っていきます。
2. 相談支援事業について見直しをしていきます。業務のスリム化等を実施する事で、利用者支援等も含めて実施していきます。
3. 利用者個々の課題を、事業所で解決できない事は地域課題として、市内自立支援協議会や相談連絡会等で発信し解決していきます。利用者の年齢による衰えに対して健康面・体力面・生活面等、医療等介護サービス利用に向けて理解しやすいように情報提供方法も検討します。現状維持する大切さ（不利益）を伝え活動・生活に対しての力を發揮できるように伝えていきます。
4. 地域に必要となる福祉サービス事業所として、地域との関係構築に努めていきたいです。その一つとして社会資源であるスペシャルオリンピックス日本・滋賀 高島支部の運営に地域のコーチとして定期的に参加していきます。より SON の競技に参加しやすいように、高島でのボッチャ練習会を開催できるように努力します。
5. 個人の喜び・悲しみ・困り事等をプライバシーに配慮しながら、職員・利用者共に思いやりをもって話せる関係になれるように努力します。